

日本機械学会 2010 年度年次大会報告

2010 年度年次大会

大会委員長 佐藤一雄

実行委員長 中村 隆

日本機械学会 2010 年度年次大会が 9 月 5 日（日）から 8 日（水）までの 4 日間にわたり名古屋市にある名古屋工業大学の全キャンパスを利用して開催された。以下に同大会の概要について報告する。

本大会は、「マイクロ・ナノ工学」「安全・安心を支える機械工学」「エコロジーパラダイムシフト」をキーワードに、経済閉塞状態の打破を意識してメインテーマを「社会変革を技術で廻す機械工学」とした。

参加者数については、事前登録数が 1141 名、会期中の当日登録が 1104 名（9 月 15 日時点での集計値）の合計 2245 名であり、これに、5 日に行われた市民開放行事への参加者数を加えると、おおよそ 2400 名程度が今回の年次大会の参加者人数となる。いまだに回復の兆しが見えない我が国の経済の中、記録的な猛暑で気力も疲弊していたとはいえ、昨年を 1 割以上上回る登録者数となった。会期中も 35 を超える残暑と、最終日は年次大会恒例の台風まで接近し、実行委員泣かせの天候での開催であった。名古屋工業大学は工学系単科大学であり、日本機械学会の年次大会を開催するには施設的に最大限であるにも係わらず、共通講義棟の耐震改修工事が重なった。工事日程を調整したものの 9 教室が使用不能となり、年次大会としては数の少ない 142 教室で学術講演発表を行った。

学術講演数は 1415 件、特別企画としては、特別講演 2 件、市民フォーラム 7 件、基調講演 19 件、先端技術フォーラム 10 件、ワークショップ 24 件、特別企画 2 件であった。これらに加え、学会本部関係、各部門関係の会議などが会期中に開催された。また、機器展示に 14 団体、書籍展示に 2 社、カタログ展示には 5 社にご協力いただいた。今回は総合受付を名古屋工業大学正門入ってすぐの講堂 2 階会議室とし、その下の 1 階ホールを機器・カタログ展示会場とした。受付に行くには展示会場を通ることになり、また無料のコーヒー・ジュース・菓子を提供する休憩スペースも併設したため、多くの見学者が各ブースを訪れていた。

市民向けの企画として実施されたフォーラムとしては、部門実施委員会が中心となって下記のものを開催した。大会テーマに沿った内容としては、

- ・原子力発電所の運転中保全（動力エネルギーシステム部門：5 件の講演）
- ・食の安全・安心に係わる機械技術（産業・化学機械と安全部門：2 件の講演）
- ・生き生き自立生活！～機械工学が導く福祉社会の未来～（機素潤滑設計、バイオエンジニアリング、機械力学・計測制御、ロボティクス・メカトロニクス部門：4 件の講演）
- ・技術者におけるリスクマネジメント（機械と社会部門：2 件の講演）
- ・もの作りを通じた「学び」の提案（機械と社会部門：2 件の講演）

また子供も楽しんで学べる催しとして、

- ・流れのふしぎ科学教室（流体工学部門：学内ものづくりテクノセンターで開催）

さらに、機械工学の歴史をわかりやすくパネルで解説する、

- ・機械遺産のパネル展示（機械と社会部門：学内 5211 教室で開催）

も実施した。

特別企画としては、下記のものが実施された。

- ・日本機械学会 JABEE の審査委員研修フォーラム（JABEE 事業委員会：5 件の講演）

・世界で活躍する若手研究者の育成に向けた大学院博士課程教育（イノベーションセンター：7件の講演）

9月6日（月）の講演会終了後、各部門主催で同好会が催された。同好会会場は大会会場近くのピアガーデン（サッポロライオン 名古屋ビール園 浩養園）とし、1階から3階まで各種コーナ・小に分かれて部門ごとの同好会となった。3階は250名は入るホールを3部屋に仕切り、4部門（2部門は合同）の同好会としたが、予想以上の参加者で溢れかえり、足の踏み場もない状態となった。大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びする。1階、2階はしゃぶしゃぶやジנגスカン、地ビールコーナなど、それぞれに楽しんで頂けたようである。

9月7日（火）の講演会終了後、学内5111教室（400席）にて2件の特別講演が行われ、立ち見参加者もでる大盛況となった。はじめに、三菱航空機株式会社会長の戸田信雄氏から「MRJを世界の空へ（MRJの技術と産業的意義）」の講演が行われた。産業の高度化に最も効果的な航空機製造を推し進め、2012年の初飛行に向けた取組の紹介が行われた。米大手航空機会社の「虎の尾を踏まぬ工夫」とともに、高性能な中型機の分野を「虎視たんたん」と狙う意気込みが伝わり、会場を埋め尽くした聴衆から深い関心を集めていた。続いて、名古屋工業大学の麓和善教授から「名古屋城本丸御殿のひみつ」の講演が行われた。同氏は名古屋開府400年を記念しての名古屋城本丸御殿復元工事にも携わっていて、本丸御殿が江戸中期に大幅に増築されたこと、建物は北西に向かうほど豪華絢爛に作られていることなど興味ある話題が紹介された。また名古屋城は江戸初期に地盤が沈下し城が傾いたこと、それを当時の土木・建築技術で引き起こして改修したことなど、興味ある話題が提供され、参加者は大いに感心した。

特別講演のあと、場所を金山駅近くのホテルグランコートに移し、年次大会懇親会が行われた。参加者数は招待客や実行委員会等も含めて220名であった。佐藤一雄大会委員長の開会の辞に続き、松本洋一郎会長のご挨拶、愛知県副知事、名古屋市副市長の祝辞のあと、名古屋工業大学学長の乾杯で祝宴が執り行われた。食事には本大会のホームページや予稿集表紙でトレードマークとなった「なごやめし」が多数用意され、特に「ひつまぶし」は大好評であった。また当地で人気が沸騰している「名古屋おもてなし武将隊」が寸劇を行い、会長や大会委員長などを壇上に上がらせて「勝ち鬨」のパフォーマンスを行い、大いに盛り上がった。

本大会では初めての試みとして、学生交流会が開催された。会員部会と支部学生会員が協力し、学生142名、技術者・委員等36名が参加し、第1部では将来のエンジニアに対し企業からのアドバイスが行われた。第2部では参加者全員の懇親が図られ、学生にとっては同じ分野の先輩と交流し、有意義な時間を過ごすことができた。

名古屋工業大学では56年ぶりの年次大会開催であり、会場の確保に奔走する毎日であった。広報活動の準備不足など、ご迷惑をおかけすることも多かったが、実行委員会の幹事の先生を始め委員の方々の献身的な努力と周囲の支えによって年次大会を終了させることができた。ここで深く御礼申し上げ、年次大会の概要報告を終える。

【大会委員会】（順不同）所属なしの場合は前者に同一

[委員長]佐藤一雄（名大）、[副委員長]鬼頭修己（名工大）、[幹事]中村 隆、[委員]高橋 実、富吉賢一（愛知県）、長谷川二三夫（名古屋市）、三留秀人（産総研）、都築正廣（愛産研）、濱田幸弘（市工研）、筒木 徳（トヨタ自）、湯川晃宏（東海支部）、佐藤 勲（東工大）、久保司郎（阪大）、後藤 彰（荏原製作所）

【実行委員会】（順不同）所属なしの場合は前者に同一

[委員長]中村 隆（名工大），[副委員長]松本健郎，[幹事]萩原正弥，[幹事]石野洋二郎，[委員]稲村豊四郎，神谷庄司，佐野明人，堂田邦明，藤本英雄，水野直樹，渡邊義見，井門康司，糸魚川文広，伊藤智啓，北村憲彦，小島之夫，坂口正道，西田政弘，山田 学，荒田純平，大羽達志，佐藤 尚，武澤伸浩，長山和亮，早川伸哉，藤井郁也，牧野武彦，田川正人，辻 俊博，森西洋平，飯田雄章，土田陽一，古谷正広，牛島達夫，玉野真司，保浦知也，内藤 隆，渡辺 嵩，小野田弘士（早稲田環研），藤本健治（名大），宇佐美初彦（名城大），北 栄輔（名大），小林明彦（名城大），成田浩久（藤田保衛大），関山浩介（名大），田中由浩（名工大），小林敬幸（名大），末富隆雅（マツダ），佐宗章弘（名大），石田正治（豊橋工高），隅蔵康一（政研大学院大），小寺秀俊（京大）



市民フォーラム（もの作りを通じた「学び」の提案）



書籍展示会場の風景



機器展示会場の風景



特別講演（戸田信雄氏，麓 和善教授）



懇親会（名古屋おもてなし武将隊と，勝ち鬨）



懇親会（名古屋めし？をねらうU教授）